

令和元年度 自然保護委員総会

第43回「山岳自然保護の集い」

宮城県石巻市「金華山大会」

(プログラム)



(宮城県山岳連盟 村上美智子さん提供)

期 日 2019年 11月 9日(土)～10日(日)
開催地 宮城県石巻市 三陸復興国立公園「金華山」周辺
主 催 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員会
主 管 宮城県山岳連盟 (協力 特定非営利活動法人 FIRST ASCENT JAPAN.)
後 援 環境省東北地方環境事務所、 林野庁東北森林管理局宮城北部森林管理署
宮城県、 石巻市

※ 開催目的

この集いは、それぞれの地域における「山岳自然環境」活動に関する発表や討議を通して情報交流を行い、以って地域活動の増進に資する機会を提供するものです。また、東日本大震災の被災地である、宮城県石巻市 三陸復興国立公園（金華山）」周辺の自然と生活環境の復興状況の視察と支援を兼ねて行います。

この活動の一部は、(一社)コンサベーション・アライアンス・ジャパンの

アウトドア環境基金からの助成を受けて実施いたします。

目次

要項	2
講演予稿「金華山と森の対話」	5
タイムスケジュール	12
総会会場（牡鹿町保健福祉センター）概念図	13
※ ホテル「ニューさか井」館内配置図	13
参加者名簿	15
野外活動班別名簿	17
野外活動コース案内	19



金華山島（NET 金華山ガイドより）

※ 金華山島概要

金華山は、宮城県石巻市の牡鹿（おしか）半島の沖に浮かぶ周囲約 26km の島である。金華山黄金山神社の神域として全島が保護されてきたので、ブナやモミの巨木に覆われ、野生のニホンジカやニホンザルが生息している。一方でシカの食害やマツクイムシの被害で裸地化の危機が迫っている。

それに加えて、東日本大震災により、神社の施設や登山道が倒壊、崩落を起こしてしまった。現在復旧作業中であるが定期船は大幅減便（日曜祝日 1 往復のみ）され、登山道はみちのく潮風トレイルに選定されたルートだけは再整備され歩行可能となっている。

*1 日本山岳遺産

次世代に伝えたい豊かな自然環境や、人と自然の関わりがあり、それらを守りながら活用するような地元の活動が盛んな山や山岳エリアを、日本山岳遺産基金が認定するものです。認定にあたっては、地域からの自薦にもとづき、外部有識者による諮問機関であるアドバイザリーボードからの意見を参考にして、日本山岳遺産基金事務局が決定します。認定は、「自然景観」「生態系・生物多様性」「文化・歴史」のいずれかが優れている山もしくは山岳エリアにおいて、NGO や自治体といった各種団体が「日本山岳遺産基金」の目的に合致する活動を行っていることが基本となります。年に一度、公募し、申請のあった山や山岳エリアとそこで活動する団体に関し、アドバイザリーボードの意見を参考に、日本山岳遺産基金事務局が審査し認定します。JMCSA顧問田中文男氏も審査員として参加いたしました。金華山は2013年に選定されました。

※ 本文は山と溪谷社発行「新文県登山ガイド：宮城県版より引用」

“東日本大震災からのグリーン復興 次代につなげる山岳自然環境”

要 項

1. 期 日 2019年11月9日(土)～11月10日(日)
2. 主催 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員会
3. 主管 宮城県山岳連盟 (協力:NPO法人 FIRST ASCENT JAPAN)
4. 後援 環境省東北地方環境事務所 林野庁東北管理局森林管理局 宮城県 石巻市
5. 会 場 牡鹿保険福祉センター 清優館 宮城県石巻市鮎川浜清崎山7 (TEL:0225-45-2113)
6. 宿 舎 ホテル「ニューさか井」 宮城県石巻市鮎川浜万治下1-7 (TEL:0225-45-2515)

第1日 11月9日(土) 受付・講演・総会

- ア、受付 10:00～10:30 牡鹿保健福祉センター 清優館、多目的ホール前廊下
- イ、自然保護委員長会議 10:10～10:30 牡鹿保健福祉センター 清優館、研修室
- ウ、開会式 10:40～10:55 牡鹿保健福祉センター 清優館、多目的ホール
- ※ 司会進行 宮城県山岳連盟 副会長 山田 定道
- A 開会の言葉 宮城県山岳連盟 会長 吉田 弘司
- B 主催者挨拶 (公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会 理事 安藤 武典
- C 主催者挨拶 (公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員長 松隈 豊
- D 来賓挨拶 一般社団法人 鮎川まちづくり協会代表理事 齋藤 富嗣
石巻市牡鹿総合支所 大窪 茂久
- E 閉会の言葉 宮城県山岳連盟 相澤 岩男
- F 事務連絡 宮城県山岳連盟 浅井 治行
- エ、基調講演 11:00～12:00 牡鹿保健福祉センター 清優館、多目的ホール
- ※ 講師紹介 FAJ代表理事(宮城県山岳連盟副会長) 村上 美智子
- ※ 講師＝中静 透氏(総合地球環境学研究所特任教授)
- ※ 演題＝金華山の森との対話
- オ、昼食 ＊休憩 12:00～12:50 昼食は各自持参。・・・近くに食べる施設は有りません。
- カ、セッション (各都府県の活動状況の発表等)
- 13:00～15:30 牡鹿保健福祉センター 清優館、多目的ホール
- ※ 司会進行 (公社)日本山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員会 小高 令子常任委員
- ★ 発表は3分以内にして下さい。 参加都道府県 自然保護委員長(代理人)
- ★ 各都道府県の活動報告書は配布資料参照方。
- ★ 質疑応答
- キ、自然保護委員総会 15:40～16:20 牡鹿保健福祉センター 清優館、多目的ホール
- 1) テーマの説明 宮城県山岳連盟 白井 美香 (FAJ副理事長)
- 2) JMSCA 自然保護委員会の活動等の説明 自然保護副委員長 堀江 伸子
- 3) 次期開催地について 自然保護副委員長 西山 常芳
- 4) その他(事務連絡等) 宮城県山岳連盟 佐藤 雄大
- ク、移動 16:20～16:50 清優館⇒自家用車及びホテル「ニューさか井」…送迎バスで約20分
- ケ、部屋割・入浴 16:30～17:50 宿泊:ホテル「ニューさか井」大浴場・・・細部は当日配布の資料参照

- コ、夕食 18:00～18:50 ホテル「ニューさか井」1階大食堂
- サ、交流懇親会 19:00～21:45 ホテル「ニューさか井」1階大食堂
- ※ 司会進行 宮城県山岳連盟 副会長 山田 貞道
- A 開会の言葉 宮城県山岳連盟顧問 青沼 武三
- B 挨拶 (公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会顧問 坂口 三郎
- C 挨拶 (公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会顧問 田中 文男
- D 来賓紹介 宮城県山岳連盟 副会長 村上 美智子
- E 乾杯(鏡割) JMSCA 坂口顧問、田中顧問、中島監事
吉田宮城岳連会長、青沼宮城岳連顧問
- F 参加者紹介(参加都道府県毎=2分程度)・・・司会 村上美智子 JMSCA 岩崎繁夫
- ニ、就寝 22:00～ 本館：4階・5階 の部屋を予定

第2日 11月10日(日) 野外活動

- ア、起床 6:00
- イ、朝食 7:00～7:45
- ウ、野外活動(ホテル⇒鮎川港……ホテルのバス及び参加者自家用車移動約=15分・・・渡船=約20分)
- ※ ホテル発7:50⇒⇒鮎川港 8:20 着～8:30 発⇒⇒金華山港 8:50 着
- ※ コース別参加者名簿は別紙参照
- ※ 本部(鮎川港) 宮城岳連=5名
- Aコース 金華山登山 みちのく潮風トレイル 9:20～13:40 所要時間:4時間30分
- ※ L=宮城岳連 SL=宮城岳連2名 SL=JMSCA常任 救護=JMSCA専門委員
- Bコース 金華山黄金山神社 1260年の歴史を探る 9:30～13:30 所要時間:2時間30分
- ※ L=宮城岳連 SL=宮城岳連 SL=JMSCA常任 救護=JMSCA専門委員
- Cコース 金華山クライミングエリア実技講習 9:30～13:30 所要時間:4時間00分
- ※ L=宮城岳連 SL=宮城岳連

ニ、解散

- ※ 金華山港 14:10 発⇒⇒14:30 着 鮎川港にて随時解散・・・送迎バスの関係あり
- ※ 公共交通機関で来場の方はホテル「ニューさか井」のバスで石巻駅へ送ります。

ホ、遠方からの来場者で11月8日(金)に前泊を希望される方は下記の要領にて案内いたします。

- ※ 宿名 割烹民宿めぐろ(0225-46-2515)及びあたご荘(0225-46-2337)
- ※ 料金7,700円(税込み、1泊2食付き)
- ※ 公共交通機関で来場者の無料バス送迎 ……8日:石巻駅⇒⇒割烹民宿めぐろ・あたご荘
……9日:割烹民宿めぐろ・あたご荘⇒⇒清優館

★ 前泊希望者の申し込みは主催者が行います。参加申込書の前泊希望欄に記入して費用は
参加費:20,000円×人数分を所定の口座に振り込み方。前泊費用:7,700円は現地徴収致します。

参加申し込み

1. 参加資格

- ア、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員
- イ、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会 顧問、参与、理事、監事など
- ウ、加盟団体から推薦された次の方々
- 1) 加盟団体自然保護委員会委員長及び委員
 - 2) 公社)日本山岳・スポーツクライミング協会認定自然保護指導員
 - 3) 環境省及び都道府県委嘱の自然公園指導員

4) その他、参加が必要と認められた方々

2. 参加申込みについて

ア、参加者は、添付の参加申込書に必要事項を記入、当該都道府県山岳連盟(協会)に提出して下さい。

イ、都道府県山岳連盟(協会)においては、記載済み参加申込書を、下記の申込先に郵便 又は、ファックス・メールで送付して下さい。

ウ、申込先 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員会

〒160-5843 東京都新宿区霞ヶ丘 4-2-807

TEL 03-5843-1631、FAX 03-5843-1635、メール info@jma-sangaku.or.jp

エ、参加費 20,000円

※ 1泊・3食、総会資料代、交流会、渡船代、短期国内旅行保険料、消費税を含む

オ、参加費の振り込み先申し込み後速やかに、寄りの郵便局から郵便振替にて送金ください。

※ その際には「第43回自然保護委員総会参加費」と通信欄へ明記ください。

※ 『口座記号』 0-0110-5-546693

※ 『加入者名』 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会

カ、申込期間 2019年8月19日(月)～10月12日(土)

キ、参加費の一部返却について(特別の事情により大会への参加が不可能になった場合)

◆ 参加費納入後・2019年10月26日までに取消通知があった場合は、キャンセル料として10%と返金費用(郵便、振込手数料)を戴きます。

◆ 2019年10月27日以降の取消通知については返却をいたしません。

3. その他

ア、大会資料及び参考資料・宿泊計画は受付時にお渡しします。

金華山(総会会場・前泊地)までの交通

1. 公共交通機関(電車・バス)利用の場合・・・参考迄に記載致しますが細部は各自調査、確認して下さい。

★ 新幹線 東京(6:32 発)⇒仙台(8:04 着⇒8:20 発)⇒JR仙石線 石巻行き⇒石巻駅(9:20 着)⇒徒歩(3分)⇒石巻駅前⇒(送迎バス)⇒清優館・・・石巻駅に誘導員を配置いたします。

★ 夜行バス 関東圏＝ pasta新宿(22:52 発)⇒石巻駅バスターミナル(6:42 着)＝(送迎バス)⇒清優館
大阪圏＝大阪 20:00 発⇒⇒仙台駅 7:42 着 仙台駅 8:20 発⇒⇒石巻駅 9:20 着
北陸圏＝金沢 22:35 発⇒⇒仙台駅 8:05 着 仙台駅 8:20 発⇒⇒石巻駅 9:20 着
中京圏＝名古屋 21:18 発⇒⇒仙台駅 7:00 着 仙台駅 7:24 発⇒⇒石巻駅 8:19 着

※ 送迎バスは11月9日(土) 第一便:午前7時30分 石巻駅所定の場所から出発します。…予定
第二便:午前9時30分 石巻駅所定の場所から出発します。…予定

※ 路線バスの石巻駅⇒⇒鮎川間の片道の乗車運賃は1,500円です。

※ 前泊(11月8日)の方は「割烹民宿めぐろ」のバスで石巻駅前の路線バス乗り場付近より送迎致します。

※ 石巻駅前送迎バス発車時刻は参加者(前泊者の人数等)の状況により、後日参加者に連絡いたします。

2. マイカー参加で高速利用の場合「ナビのセット:牡鹿保健福祉センター 清優館(TEL:0225-45-2113)か又は「ほっとまる(TEL:0225-45-3618)」にSETして下さい。

※ 三陸自動車道女川ICで降り万石橋を渡り県道2号線(石巻―鮎川線)を通過して清優館迄、

※ 東北自動車道:仙台若林JCT⇒三陸自動車道:石巻河南IC⇒国道398経由・JRわたのは駅付近から県道2号線を牡鹿半島・鮎川港に向かう・・・約2時間で牡鹿保健福祉センター 清優館

※ 前泊(11月8日)の方は鮎川港手前の小湊浜の(三陸自動車道・石巻河南ICから約1時間30分)割烹民宿めぐろ(0225-46-2515)及びあご荘(0225-46-2337)

講演予稿「金華山の森との対話」

※ 講師紹介

講師＝中静 透 氏(総合地球環境学研究所特任教授)の略歴



新潟県生まれ。森林生態学者。第一回みどりの学術賞受賞者。森林総合研究所主任研究官、京大大学生態学研究センター教授、総合地球環境学研究所教授、東北大学生命科学研究科教授などを経て、2016年より総合地球環境学研究所特任教授・プログラムディレクター。

主な著作

「モンスーンアジアの生物多様性」

「森のスケッチ」

「生物多様性は復興にどんな役割を果たしたか
東日本大震災からのグリーン復興」



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

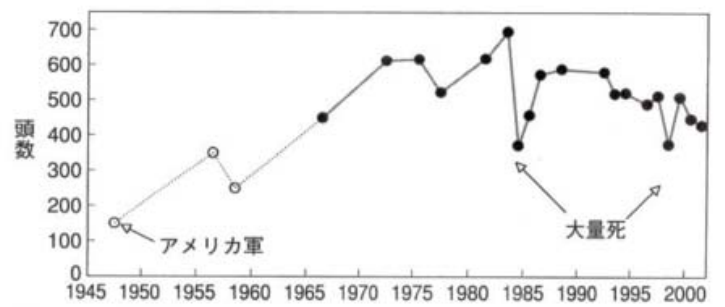


図 7.2.1 金華山島のシカの個体数変動 (高槻・伊藤, 1999 より改変)

高槻成紀 (2006) 「シカの生態誌」 東京大学出版会

⑩



⑪



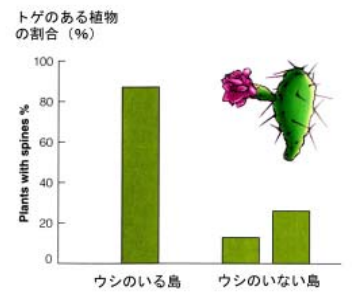
⑫



⑬

植食者がいるとトゲ植物が増える

FIGURE 14.7
Percentage of the cactus Opuntia stricta having spines on three islands off the coast of Queensland, Australia. Cattle were present on one island and grazing damage was observed, but cattle were absent from the other two islands. (After Myers and Bazely 1991.)



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲



⑳



㉑



㉒



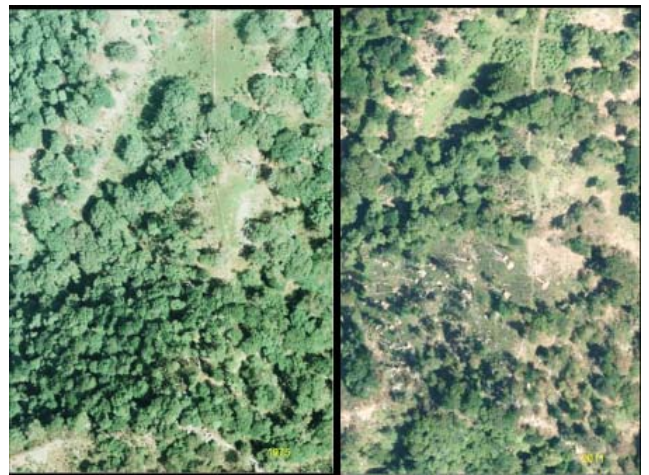
②③



②④



②⑤

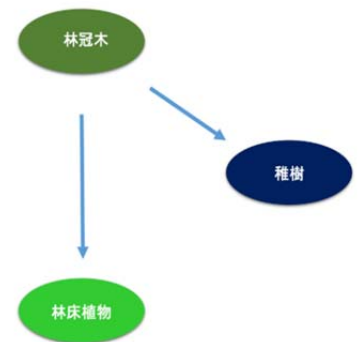


②⑥



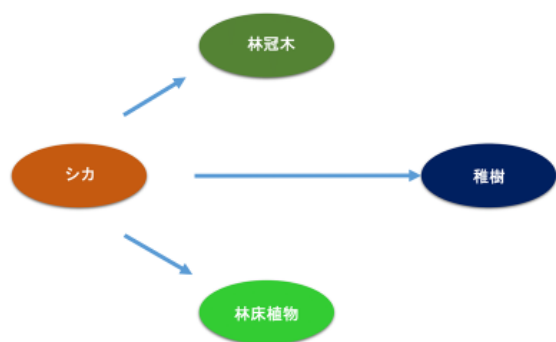
②⑦

シカがいなければ



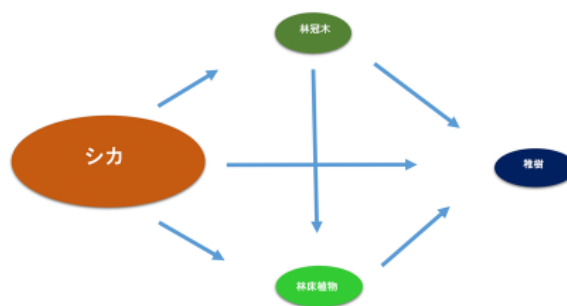
②⑧

シカの採食によって森林が衰退する



②9

シカ柵を作ると森林が復活する



③0



③1



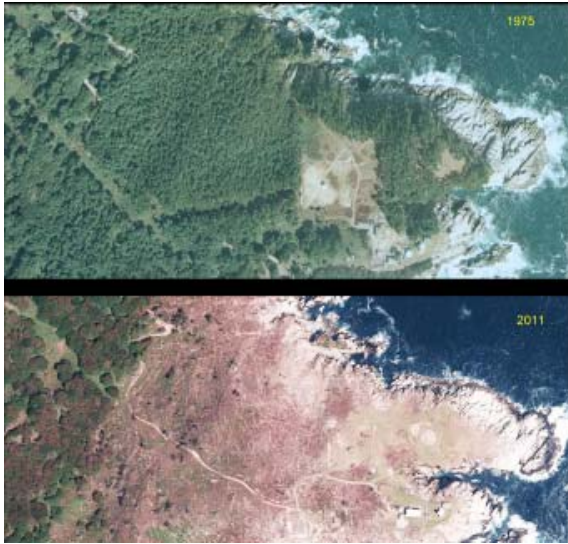
③2



③3

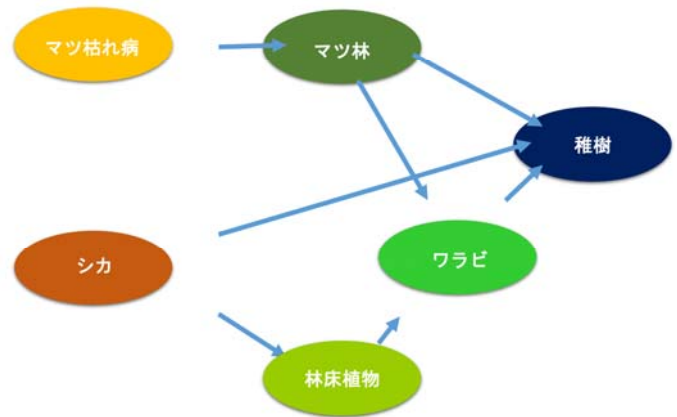


③4



③⑤

マツ林がワラビの草原になる



③⑥



③⑦



③⑧

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

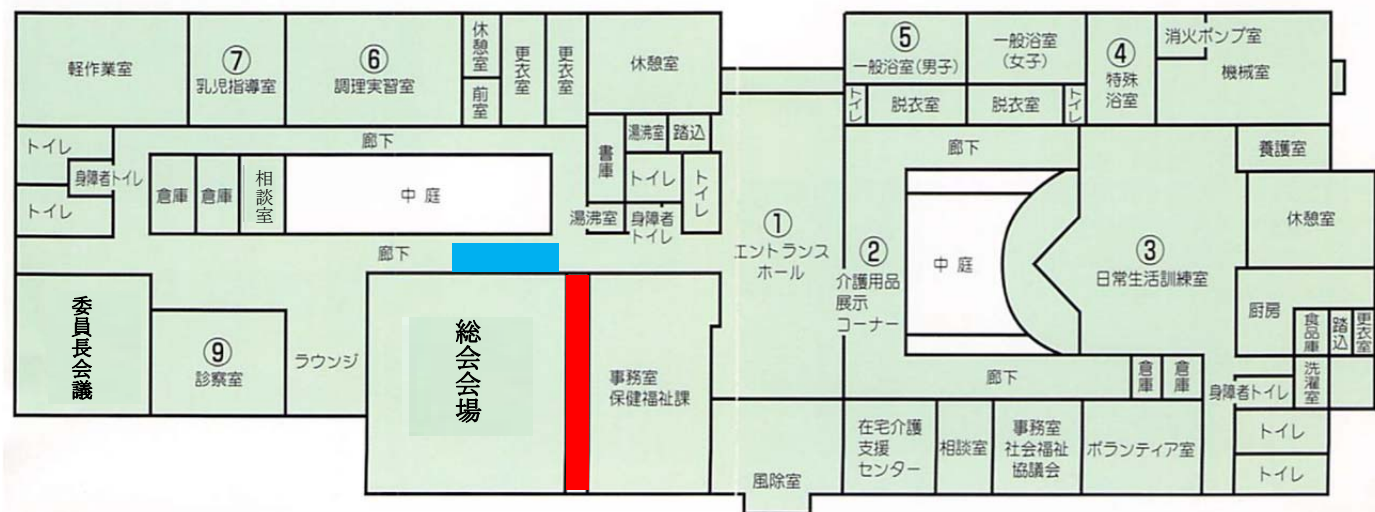
タイムスケジュール

	11月9日(土)	11月10日(日)
午前	受付開始 10:00～10:30 清優館 多目的ホール前	起床 6:00
	委員長会議 10:10～10:30 清優館 会議室	朝食 7:00～7:45⇒ホテル食堂 ※ 荷物整理を済ませてください。
	開会式 10:40～10:55 清優館 多目的ホール	野外活動出発 ※ ホテル発 ⇒ 鮎川港着 ⇒ 鮎川港発⇒金華山港着 7:50 ⇒⇒⇒8:20⇒ ⇒ ⇒8:30 ⇒ ⇒8:50 ※ 荷物は持って移動⇒保管場所は別途 ※ ホテルのバスで送迎 ※ 自家用車「ナビ SET (鮎川港)」 ★ 駐車場は別途連絡
基調講演 11:00～12:00 清優館 多目的ホール	野外活動 Aコース 潮風トレイル・金華山登山 周回コース=9:20 発～13:40 Bコース 黄金山神社 1,260年の歴史を探る 黄金山神社参拝他=9:30 発～13:30 Cコース ボルダリングエリア探訪 9:30 発～ 13:30	
午後	昼食 12:00～12:50 清優館 多目的ホール他	閉会式 ※ 金華山港棧橋付近=13:45～14:00 ※ 閉会式終了後解散 帰路 ※ 金華山港発⇒⇒ 鮎川港着 ※ 14:10⇒⇒⇒⇒14:35 ※ 鮎川港発⇒⇒⇒ 石巻駅着(ホテルのバス) 14:50⇒⇒⇒⇒16:10頃
	総会 13:00～16:20 活動報告 清優館 多目的ホール	
	移動 16:30～16:50 清優館 ⇒ホテル「ニューさか井」 ※ ホテルのバスで送迎 ※ 自家用車「ナビ SET (0225-45-2515)」	
	入浴 17:00～17:50 ホテル地下大浴場 夕食 18:00～18:50 ホテル1階大食堂 交流・懇親会 就寝 19:00～21:45 ホテル1階大食堂 22:00～ ※ 事情により内容を変更することもあります。	
後		※ 1 事情により変更することがあります。 ※ 2 荒天(シケで渡船欠航)の場合は10日朝食時に連絡いたします。

※ シケで金華山島に渡船欠航時の野外活動(変更する場合があります。)

- ★ ホテル…キャンプ場…御番所公園…「おじかのれん街」…(道の駅)…鯨博物館(見学)細部は後日
- ★ 牡鹿半島、鮎川港周辺は東日本大震災の津波復旧工事の進行状況を確認して当日朝食時に連絡致します。

総会会場（牡鹿町保健福祉センター）概念図

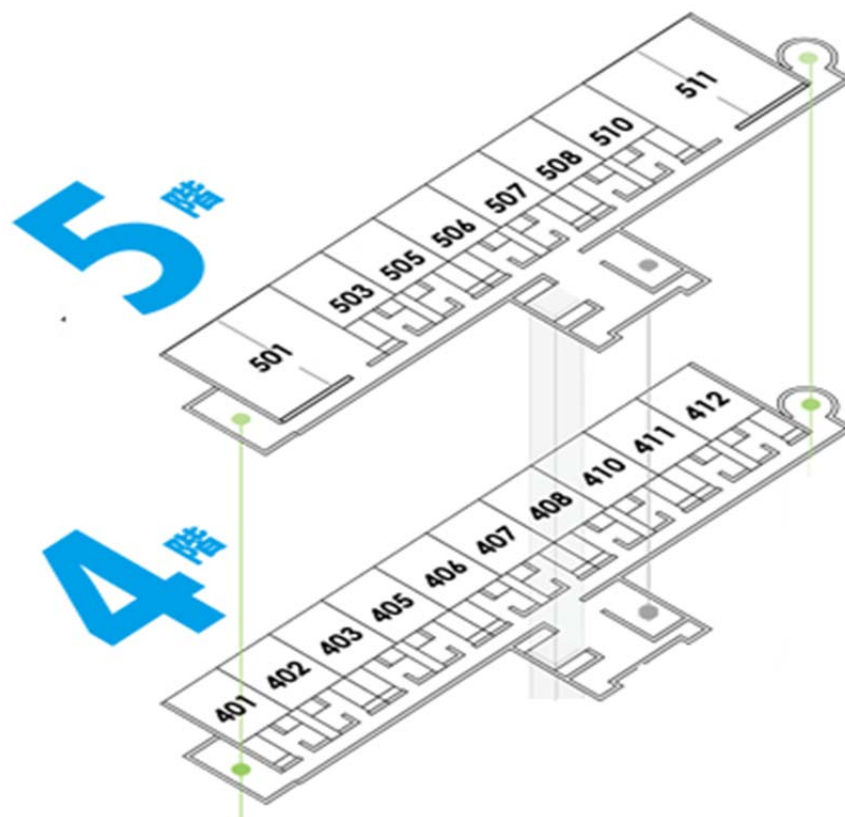


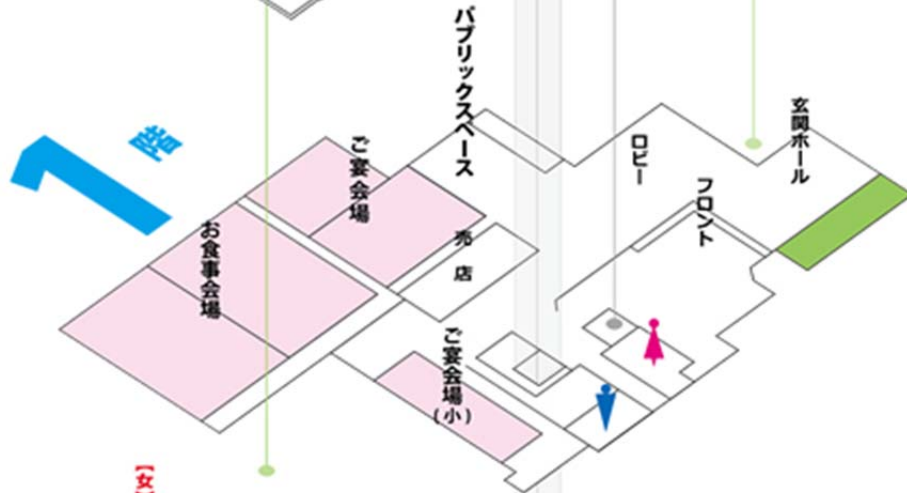
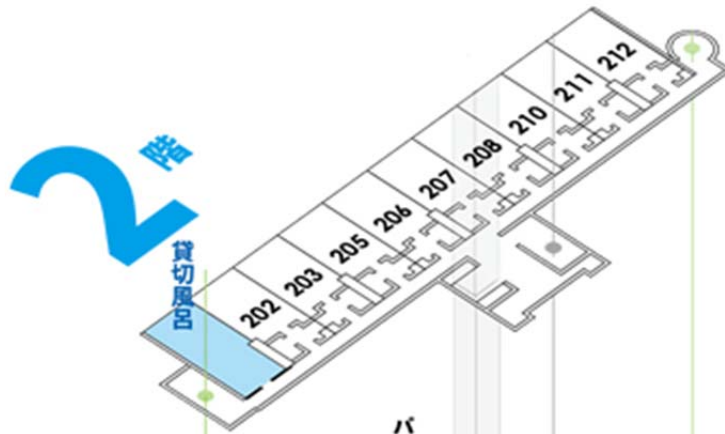
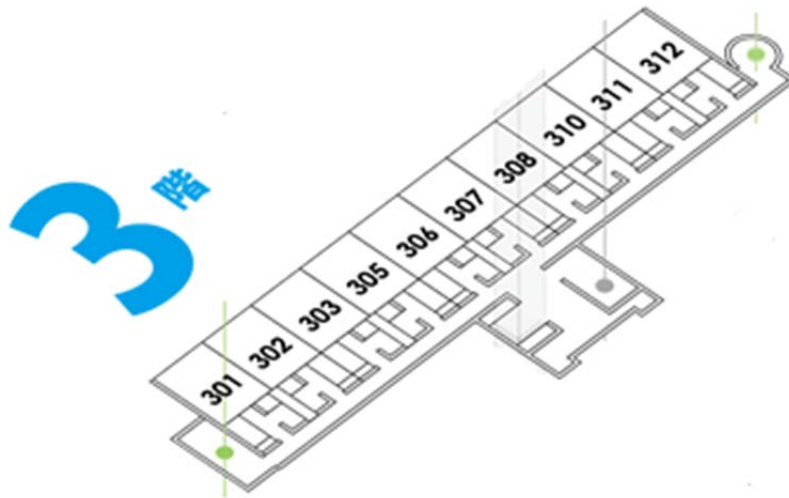
※ 総会会場案内図（牡鹿町保健福祉センター）

1. 相談室 ⇒⇒⇒来賓控室（宮城県、石巻市、林野庁、講師、JMSCA 会長・顧問）
2. 研修室 ⇒⇒⇒自然保護委員長会議室（各県自然保護委員長及び代理、JMSCA 自然保護常任）
3. 多目的ホール ⇒総会会場
4. ■ 色部⇒⇒⇒⇒受付場所（多目的ホール通路）
5. ■ 色部⇒⇒⇒⇒荷物 置き場（総会会場、多目的ホール後ろの倉庫内）

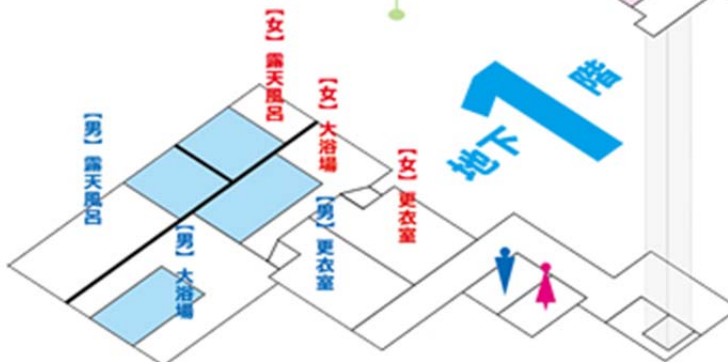
※ ホテル「ニューさか井」館内配置図

4・5階は宿泊





1階 玄関



地下1階
お風呂

参加者名簿

1. 来賓者名簿（順不同） 氏名、役職等に誤記、記入漏れが御座いましたらご容赦ください。

- イ、石巻市 齋藤 富嗣 石巻市一般社団法人 鮎川まちづくり協会 代表理事
 ロ、講師 中静 透 総合地球環境学研究所特任教授（宿泊＝506）
 ハ、主催団体 安藤 武典 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会主管理事
 （愛知：会長 野外活動＝A 宿泊＝302）

2. 参加者名簿（1） 氏名、役職等に誤記、記入漏れが御座いましたらご容赦ください。

NO	氏名	性	所属	JMSCA 役職	出身岳連役職	野外活動			交通機関			部屋NO
						A	B	C	交通	送迎	前泊	
1	坂口 三郎	男	栃木県	顧問	名誉会長		●		同乗			302
2	田中 文男	男	埼玉	顧問	名誉会長	×	×	×	公新	別途	有	303
3	中島 正喜	男	東京	監事	監事		●		公新	別途	有	303
4	相澤 重夫	男	埼玉		副会長		●		夜バ	①		312
5	今井 茂子	女	埼玉		自然保護委員	●			同乗		有	401
6	長谷川 茂	男	埼玉		自然保護副委員長	●			自車			311
7	計良 寿彦	男	埼玉		指導委員会委員	●			夜バ	②		311
8	八木 滋	男	埼玉		自然保護委員	●			自車		有	312
9	柴崎 英保	男	埼玉		自然保護委員		●		夜バ	①		312
10	竹原 和弘	男	埼玉			●			夜バ	①		312
11	田中 恵子	女	埼玉			●			夜バ	①		405
12	渡邊 淑子	女	埼玉				●		夜バ	①		405
13	阿部 和子	女	埼玉				●		夜バ	①		405
14	氏原 佐和子	女	埼玉			●			同乗		有	403
15	森 智佳子	女	埼玉			●			公新	②		403
16	吉田 秀夫	男	埼玉			●			同乗			311
17	千川 貞二	男	埼玉			●			同乗			311
18	橋川 弘子	女	三重		自然保護副委員長	●			公新	②		406
19	川口 章子	女	東京		日本山岳会	●			公新	②		407
20	速水 恵子	女	栃木		自然保護副委員長	●			同乗			410
21	奈良 忠男	男	栃木		自然保護副委員長	●			自車			508
22	臼井 哲夫	男	栃木		自然保護委員	●			自車			508
23	杉本 和子	女	埼玉			●			同乗			405
24	椎名 宏子	女	東京			×	×	×	公新	②		407
25	笠松 幸衛	男	東京			●			公新	②		306
26	松井 秀樹	男	広島			●			公新	②		306
27	濱本 義弘	男	岡山	自然保護委員	自然保護委員長	●			自車			306
28	米田 正明	男	石川	自然保護委員	自然保護委員長	●			公	②		306
29	三田 治宣	男	群馬	自然保護委員	自然保護委員長	●			自車			510
30	高木 均	男	群馬		自然保護委員	●			自車			510
31	高木 薫	女	群馬			●			同乗			406
32	磯野 澄也	男	山梨	自然保護委員	自然保護委員長	●			自車			510
33	中川 恵美子	女	山梨		自然保護委員長	●			同乗			406
34												
35	中澤 智子	女	山梨		自然保護委員	●			同乗			406
36	中沢 隆一	男	茨城	自然保護委員	自然保護委員長	●			自車			508

37	伊藤 直	男	新潟	自然保護委員	自然保護委員長	●			自車			307
38												
39	井口 礼子	女	新潟			●			同乗			407
40	吉田 春彦	男	岩手		会長		●		同乗			305
41	山口 吉男	男	岩手		登山普及部副部長		●		同乗			305
42	十二林 良治	男	岩手		登山普及部副部長	●	●		自車			305
43	近藤 修三	男	岩手		自然保護担当役員	●			同乗			305
44	門屋 峰雄	男	岐阜	自然保護委員	自然保護委員長	●			公新	②		307
45	小島 守男	男	栃木		名誉会員		●		自車			302
46	米光 伸行	男	山口		自然保護副委員長	●			公新	別途	有	307
47	仙石 富英	男	栃木		副会長	●			同乗			302
48	小池 博	男	栃木			●			同乗			508
49	群司 恭子	女	栃木			●			同乗			410
50	手塚 幸子	女	栃木			●			同乗			410
51	堀野 久美	女	栃木			●			同乗			410
52	増子 麗子	女	北海道	自然保護委員	自然保護委員長	●			公	別途	有	407
53	青沼 武三	男	宮城		顧問				本部付き			308
54	石川 芳光	男	宮城			●						308
55	氏家 新一	男	宮城				●					308
56	里見 眞也	男	宮城				●		自車			310
57	目黒 眞一	男	宮城				●		自車			310
58	高橋 千代子	女	宮城			●						408
59	相澤 岩男	男	宮城		顧問				本部付き		有	303
60	佐々木 春佳	女	一般			●			自車			412
61	小林 あずみ	女	一般			●			自車			412
62	坂本 育子	女	宮城			●						412

3. 宮城県役員名簿

氏名、役職等に誤記、記入漏れが御座いましたらご容赦ください。

NO	氏名	性	県連役職	総会担当職	野外活動			交通機関			部屋NO	
					A	B	C	公共	送迎	前泊		
1	吉田 弘司	男	会長	県内：実行委員長（全般）				本部付き	自車		有	303
2	山田 定道	男	副会長	県内：実行副委員長（渉外）				本部付き	自車		有	501
3	村上 美智子	女	副会長	県内：運営委員長（全般）				B=L	自車		有	412
4	岡 香織	女		県内：運営委員（会計）				本部付き	同乗		有	408
5	黒田 悦子	女		県内：運営委員（受付）	●							408
6	涌澤 直子	女		県内：運営委員（受付）	●							408
7	岩田 昇太	男		県内：運営委員（荷物）				C=S L	自車			無
8	佐藤 雄太	男		県内：運営委員（駐車場）				C=L	自車		有	310
9	浅井 治行	男	理事	10日のみ				A=L	自車			10日のみ
10	白井 美香	女		県内：運営委員（受付）				A=S L	自車			411
11	リサ ソマーズ	女		県内：運営委員（荷物）				C=S L	同乗			411
12	一柳 淳夫	男		10日のみ				A=S L	自車			10日のみ
13	ラザロ エチェニケ	男		県内：運営委員（荷物）				C=S L	自車			506
14	菅野 郁生	男		県内：運営委員（駐車場）	●				同乗			310
15	大友 章	男	理事	県内：運営委員（駐車場）				B=S L	自車		有	308
16	佐々木 賢一	男		10日のみ	●				自車			10日のみ

4. (公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会自然保護委員会名簿

NO	氏名	性別	所属都県	日山協	出身岳連役職	野外活動			交通機関			部屋NO
						A	B	C	交通	送迎	前泊	
1	松隈 豊	男	神奈川	委員長 (実行委員長)	理事長	×	×	×	自車			501
2	西山 常芳	男	東京	副委員長 (実行副委員長)		●			公新	別途	有	501
3	堀江 伸子	女	埼玉	副委員長 (実行副委員長)	自然保護副委員長	●			同乗		有	401
4	田上 正敏	男	茨城	常任委員 (実行委員)	広報委員長		●		同乗			503
5	手塚 福寿	男	栃木	常任委員 (実行委員)			●		自車			503
6	濱田 伸	男	千葉	常任委員 (実行委員)	自然保護委員長	●			公新	別途	有	503
7	小高 令子	女	東京	常任委員 (実行委員)		●			同乗			401
8	猪狩 ノブ	女	東京	常任委員 (実行委員)	自然保護副委員長	●			公新	別途	有	401
9	小林 貞幸	男	東京	常任委員 (実行委員)	自然保護委員長	●			自車			511
10	岩崎 繁夫	男	東京	常任委員 (運営委員長)			●		同乗		有	501
11	増田 修	男	東京	専門委員 (運営副委員長)	自然保護委員長		●		自車			503
12	岡田 博行	男	東京	専門委員 (運営委員)	自然保護委員長	●			自車	①		511
13	小島 和徳	男	東京	専門委員 (運営委員)		●			自車			511
14	湯浅 達男	男	神奈川	専門委員 (運営委員)		×	×	×	自車		有	511
15	千葉 弓子	女	埼玉	専門委員 (運営委員)		●			同乗		有	403
16	伊藤 篤子	女	神奈川	専門委員 (運営委員)			●		夜バ	①		403

野外活動班別名簿

イ) 野外活動本部

NO	役務	所属	氏名	電話番号	備考
1	本部責任者	宮城	吉田 弘司	090-3753-4896	
2	本部副責任者	宮城	山田 定道	090-6254-7681	
3	本部要員	宮城	岡 香織	090-7527-4544	
4	本部	宮城	相澤 岩男	080-3149-8050	
5	本部	宮城	青沼 武三	090-4551-3501	
6	本部	日山協	岩崎 繁夫	090-1604-6848	B = 記録予定

イ) Aコース 金華山登山 みちのく潮風トレイル CL=浅井 治行 (63)

※ A-1班

NO	役務	所属	氏名
1	L	宮城	白井 美香
2	SL	常任委員	西山 常芳
3		埼玉	田中 恵子
4		埼玉	氏原 佐和子
5		埼玉	森 智佳子
6		群馬	三田 治宣
7		群馬	高木 均
8		群馬	高木 薫
9		石川	米田 正明
10	救護	専門委員	千葉 弓子

※ A-2班

NO	役務	所属	氏名
1	L	宮城	ラザロ エチエニケ
2	SL	常任委員	濱田 伸
3		埼玉	竹原 和弘
4		埼玉	長谷川 茂
5		埼玉	杉本 和子
6		埼玉	吉田 秀夫
7		埼玉	千川 貞二
8		山口	米光 伸行
9		茨城	中沢 隆一
10		岩手	近藤 修三

※ A-3班

NO	役務	所属	氏名
1	L	宮城	リサ ソマーズ
2	S L	常任委員	堀江 伸子
3		埼玉	八木 滋
4		埼玉	計良 寿彦
5		埼玉	今井 茂子
6		三重	橋川 弘子
7		一般参加	佐々木 春佳
8		一般参加	小林 あずみ
9		宮城	坂本 育子
10		北海道	増子 麗子

※ A-4班

NO	役務	所属	氏名
1	L	宮城	佐藤 雄大
2	S L	常任委員	小高 令子
3		新潟	伊藤 直
4		新潟	遠藤 俊一
5		新潟	井口 礼子
6		東京	川口 章子
7		広島	松井 秀樹
8		宮城	目黒 真一
9		宮城	高橋 千代子
10	救護	専門委員	小島 和徳

※ A-5班

NO	役務	所属	氏名
1	L	宮城	涌沢 直子
2	S L	常任委員	猪狩 ノブ
3		岡山	濱本 義弘
4		岐阜	門屋 峰雄
5		山梨	磯野 澄也
6		山梨	中川 恵美子
7		山梨	植田 憲弘
8		山梨	中澤 智子
9		宮城	菅野 郁生
10		宮城	石川 芳光
11			

※ A-6班

NO	役務	所属	氏名
1	L	宮城	黒田 悦子
2	S L	専門委員	岡田 博行
3		栃木	速水 恵子
4		栃木	奈良 忠男
5		栃木	臼井 哲夫
6		栃木	仙石 富英
7		栃木	小池 博
8		栃木	手塚 幸子
9		栃木	郡司 恭子
10		栃木	堀野 久美
11		東京	笠松 幸衛

※ A-7

NO	役務	所属	氏名	備考
1		愛知	安藤 武典	自由行動
2		宮城	佐々木 賢一	自由行動
3	記録	常任委員	小林 貞幸	自由行動
4	L	宮城	一柳 淳夫	
5		宮城	大柿 ちひろ	
6		宮城	阿部 緑	
7				

ロ) Bコース 金華山黄金山神社 1260年の歴史を探る

※ B-1班

NO	役務	所属	氏名
1	L	宮城	村上 美智子
2	S L	常任委員	手塚 福寿
3	救護	専門委員	増田 修
4		顧問(栃木)	坂口 三郎
5		監事(東京)	中島 正喜
6		栃木	小島 守男
7		埼玉	相澤 重夫
8		埼玉	渡邊 俣子
9		宮城	里見 眞也

※ B-2班

NO	役務	所属	氏名
10	L	宮城	大友 章
11	S L	常任委員	田上 正敏
12	救護	専門委員	伊藤 篤子
13		埼玉	柴崎 英保
14		埼玉	阿部 和子
15		岩手	吉田 春彦
16		岩手	山口 吉男
17		岩手	十二林 良治
18		宮城	氏家 新一

野外活動コース案内

(金華山 : 日本山岳遺産*みちのく潮風トレイル*選定地)

※ みちのく潮風トレイルについて

環境省が、三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興プロジェクトの一環として、「三陸地域を南北につなぎ交流を深める道＝東北太平洋岸を歩いてつなぐ長距離自然歩道」として推進してきたもので、本年6月9日青森県八戸市から福島県相馬市まで1000kmの全線が開通しました。今回の会場は「石巻市牡鹿半島南部」の一部です。

ホームページでトレイルマップや各種情報が公開されています。

※ A コース 金華山(444m)登山(みちのく潮風トレイル)

★ 金華山港をスタート・ゴールとする、震災後に再整備された約4キロの周回コースです。金華山神社に参拝したのち、本殿右側の沢コースを登ります。八合目から展望が開け太平洋を望みながら歩きます頂上には大海祇(おおわだつみ)神社があり、牡鹿半島、仙台湾、条件さえよければ蔵王連峰が遠望できます。下りは二の御殿跡、造林小屋を経由して神社へと下ります。また、コース途中には地震による崖崩れの痕が残っています。

(文は YAHOO 金華山観光ガイドより引用)

★ コース (予定歩程時間約4時間30分)

金華山港…登山口…水神社…金華山山頂…二ノ御殿跡…造林小屋…黄金山神社…港



(山と溪谷社:新・分県ガイド宮城県の山から引用)

※ B コース 金華山黄金山神社 1260年の歴史を探る

◎ 「3年連続でお参りに行くと、一生お金に困らない」と言い伝えられる金運スポット、金華山黄金山(きんかさんこがねやま)神社(以下、黄金山神社)と言う、宮城県で(日本で)初めて金が産出されたことを祝い、建てられた神社で、黄金山神社は、平安時代の終わりから権力者の寄付が行われ、大切にされてきた場所で島全体は神様が宿る聖域として、修験者も多く訪れ、神聖な場所として崇められ、古来より東奥三大霊場として知られています。

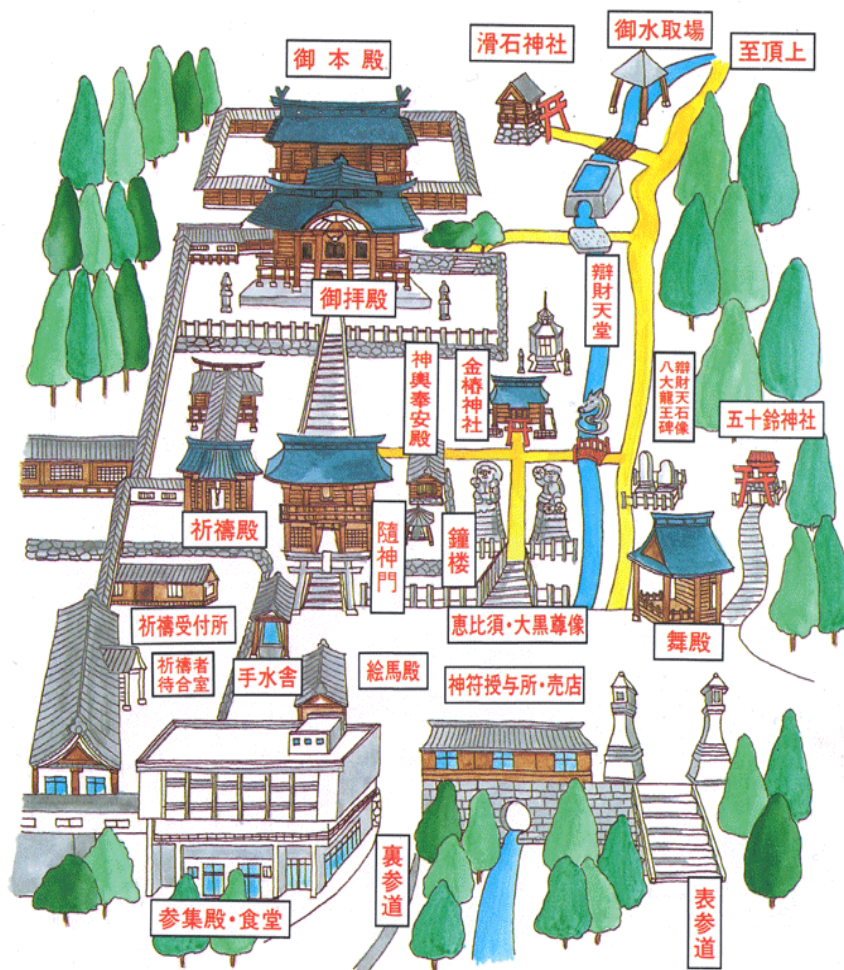
また、江ノ島神社、巖島神社に並ぶ「日本五大辯財天」としても有名です。

今回は神社境内を中心に周辺を含め歴史的・文化的スポットを中心に散策します。

(文は YAHOO 金華山観光ガイドより引用)

● コース (予定行動時間:約=4時間)

★ 金華山港…黄金山神社(参拝・見学)…金華山港



(写真は YAHOO 金華山観光ガイドより引用)

※ Cコース 金華山ボルダリングエリア探訪

- ボルダリングエリアは国有地で利用に際して林野庁の許可が必要です。(非公開場所)
被災した金華山を岩登りのボルダリングで復興しようと仙台のクライマーが中心となり設立したのが「特定非営利活動法人 FIRST ASCENT JAPAN.(ファースト・アッセント・ジャパン」代表理事むらかみみちこ氏)金華山震災支援活動を「宝島プロジェクト」と銘打って活動しています。
金華山港から金華山神社に参拝したのち、ファースト・アッセント・ジャパンの案内で特別に非公開場所を巡ります。(文はYAHOO 金華山観光ガイドより引用)

- コース(行動予定時間:約=4時間)

- ★ 金華山港…黄金山神社(参拝)…ボルダリングエリア(見学)…金華山港



写真はYAHOO 金華山観光ガイドより引用)



Leave no Trace 精神に学ぶ

山での緊急時のトイレは一体どうすればいいのでしょうか。持帰らず残したものは、その場所で廃棄物になってしまいます。「Leave no Trace™」という米国の野外教育NPO団体（www.lnt.org）では野外活動での排泄物への対処を次のように進めていますので要点を紹介します。

一般的に知られている考え方に反して、糞便を土に埋めるとゆっくりと分解するという研究報告もあります。土に埋められると、病原体は1年間以上も生き残ることが分かっています。しかし、他の問題をも考えると、糞便を土に埋めるのが一般的に最良とされます。分解には時間がかかるので、適切な場所（水、キャンプサイトなどから遠い）を選ぶ必要があります。この土に埋めるために掘る穴のことを「キャットホール」と言います。

キャットホールは糞便処理で最も広く認められた方法です。水、コース、キャンプ場から出来るだけ離れた、目立たない場所に決めて下さい。

小さな移植ごて（又は代用品）で糞便がかくれる程度の穴を掘って下さい。使用後、土で穴をふさぎ、落ち葉などの自然物で覆って後を隠しましょう。

同じ場所に何泊もキャンプするとか、メンバーが多い場合などは、キャットホールの場所を広く分散することが大切です。

尿は、植物または土への直接の影響はほとんどありません。しかし、尿のおいしさはその場にかぐわしい香りを発生させ、動物たちは尿から生まれる塩分を探ろうと、地面を足先でかきまわし、植物の葉をむしり取ります。そのため出来るだけキャンプサイトから遠ざかって、岩場あるいは砂地で排尿すべきです。

山のトイレゴミを減らしましょう

◆トイレゴミを減らすには◆

- ①まず、入山前にトイレに行こう。
- ②山では出来るだけトイレで用を足そう（財布に小銭を忘れずに）
- ③使用済みの紙は必ず持ち帰ろう。（ポリ袋はいつも携帯しよう）
- ④携帯トイレも使ってみよう

◆山のゴミを分類すると◆

ゴミ区分	説明	内容
トイレゴミ	排泄等で使用済みとなったもの	ペーパー、ナプキンなど
ポイ捨てゴミ	登山等中で捨てられたゴミ	ボトル、缶、包装紙、弁当ガラなど
生ゴミ	自炊や食事が出たもの	残飯、残汁など

上記は登山者の努力で減らせることができるものです。

挿絵協力：とよた時

置き去りにしないで 山のトイレゴミ (持ち帰りにご協力を)



屋外でも、山小屋のトイレでも、使った紙は持ち帰りましょう。そのためにポリ袋はいつも携行しましょう。

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会
自然保護委員会
<http://www.jma-sangaku.or.jp/>



最近の山のトイレ事情

最近、山のトイレには、快適な設備が導入されつつあります。そのため、より多くの人々が山へ出かけるようになってきました。

しかし、人気の山は登山者が集中しすぎて、自然の収容力を超えた「オーバーユース」状態を招いているのが実情です。

山のトイレは従来式の「ぼとん式」から、バイオなどハイテク技術を導入したエコ・トイレへと進歩しています。

一方で、こうした進歩に登山者の意識が追いついていません。

山のトイレ問題には設備の整備以上に、「トイレマナー」について登山者がもっと学ぶことが求められているのではないのでしょうか？

山のトイレマナー

◆まず、登山口でトイレを

入山前に、まず登山口でトイレを済ませておきましょう。

◆チップは必ず払おう

山のトイレのチップ（協力金）は必ず払いましょう。出発前に財布に小銭を入れておきましょう。

◆トイレ設備のルールに従おう

みんなが快適に使えるよう、利用方法など決められたルールを守ろう。

注意！ 下着、生理用品、紙おむつ等は絶対に捨てない。右コラム参照

◆紙は持ち帰ろう

使用済みの紙は持ち帰りましょう。出発前にザックにポリ袋（密閉式が望ましい）を入れましょう。



携帯トイレについて

◆最近では、知床、早池峰、戸隠、屋久島など多くの山で、携帯トイレが利用されるようになりました。

◆主要な山岳地域では、登山口での販売、トイレブースの設置、下山口での回収ボックスと登山者にとって使いやすいようになりつつあります。

◆ぜひ、一度携帯トイレを使ってみましょう。

異物をトイレに捨てると どんな支障が発生？

◆ポケットティッシュや生理用品、オムツ（不織布）、ビニールなど化学原料で作られたものは自然界で分解されず、いつまでも残ってしまいます。

◆バイオトイレなどでは異物がトイレの働きを阻害する要因となっています。

◆従来式のトイレでも掃除や汲み取りに大変な支障をきたしています。





公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
自然保護委員会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 807

電話 03-5843-1631

FAX 03-5843-1635

HP www.jma-sangaku.or.jp

E-Mail info@jma-sangaku.or.jp